

東アジアの

文字漫遊

漢字とそれを  
取り巻く文字



2024年

12月2日(月) - 12月15日(日)

土日祝休場 (12月14-15日、日本漢字学会大会中は開場)

開場時間: 11:00 - 16:00

※開室時間が短くなっておりますのでご注意ください。

東京外国語大学  
アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)  
1階資料展示室

入場無料

※ただし、イベント②に参加ご希望の方は材料費が必要です。

●展示企画イベント①「展示品解説ツアー」(展示室)  
12月6日(金) 13:00-14:00頃

●展示企画イベント② 金文彫刻体験  
「金文アクセサリーを作ろう!」(AA研3階304室)  
短時間で固まるパテを使い「金文」を1文字ほど刻んで、  
古代の漢文字字形を体験していただけます。

12月6日(金) 12:00-13:00頃

12月14日(土) 17:00-18:00頃

12月15日(日) 12:00-13:00頃



※14日、15日のイベントは漢字学会の休憩時間などを利用して両日行います。

※当日材料費(200円)のみ頂きます。

※シンナー(有機溶剤)、刃物は用いません。

小学生以下のお子様でも保護者同伴で参加していただけます。

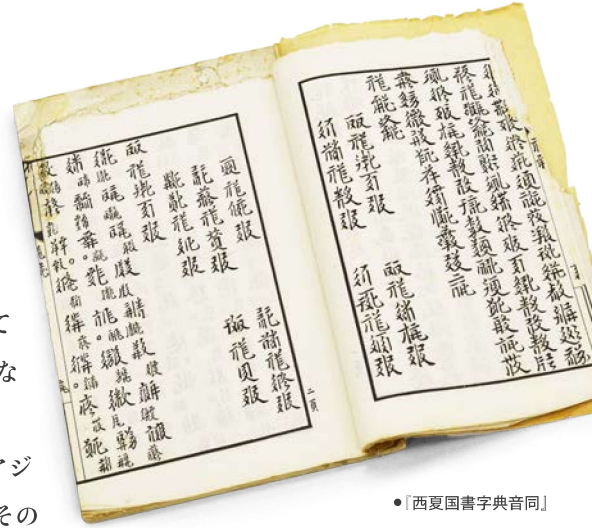
※当日参加人数が多い場合は、整理券などを配り、時間を分けて行います。

ごあいさつ

漢字は過去から現在まで、東アジアの文字文化に影響を与え続けています。本邦の仮名、ベトナムのチュノム、契丹文字、西夏文字など、漢字から間接的・直接的に影響を受け、中国周辺には多くの文字が誕生しました。一方、彝文字、ナシ象形文字など、独立した文字体系も命脈を保っています。漢字自身も、甲骨文から金文、各種の書体の変遷を経て、様々な姿を示してきました。この企画展では、漢字と、それを取り巻く東アジアのユニークな文字資料、研究書を紹介します。

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所既形成拠点GICAS(アジア書字コーパス拠点)は、アジアの貴重な文字資料の収集と研究に努め、その活動はAA研基幹研究「アジア・アフリカの言語動態の記述と記録：アジア・アフリカに生きる人々の言語・文化への深い理解を目指して」(DDDLing)に継承されています。本企画展では、GICAS、AA研文献資料室などが所蔵する資料をご覧いただき、東アジアの豊饒な文字文化の一端をご理解いただければ幸いです。

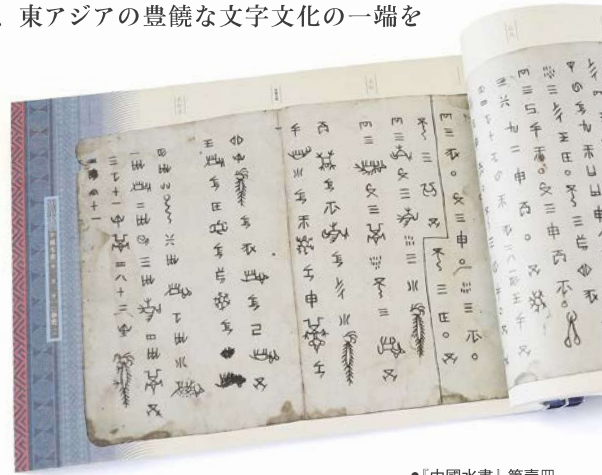
2024年12月  
アジア・アフリカ言語文化研究所 所長 近藤 信彰  
既形成拠点GICAS 代表 荒川 慎太郎



●[西夏国書字典音同]



●ナシ族コバ文字経典



●[中国水書] 第壹冊

# 東アジアの文字漫遊

# 漢字とそれを取り巻く文字

2024年  
12月2日(月) - 12月15日(日) 入場無料

土日祝休場 (12月14-15日、日本漢字学会大会中は開場)

開場時間：11:00 - 16:00

※開室時間が短くなっておりますのでご注意ください。

## 金文彫刻体験イベントも開催!

お好きな1文字ほどを彫っていただきます。固まったら塗装もできます。※詳細は表面へ



### 【会場】

東京都府中市朝日町 3-11-1  
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所  
1階資料展示室

### 【問い合わせ先】

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所  
TEL: 042-330-5600  
FAX: 042-330-5610

